

100年の歴史に幕川下小学校閉校

川下小学校で最後の卒業証書授与式が行われました。

同校最後の卒業生となった4人は、在校生の演奏と父母が見守る体育館へ緊張気味に入場。伊藤校長が一人ひとりに卒業証書を授与し「川下小学校での経験と思い出を誇りに目標に向かって行ってください」とはなむけの言葉をかけました。

また、引き続き行われた閉校式で、児童を代表した葛西浩幹君は「いままでの数々の思い出が浮かび上がります。地域の方がプレゼントして下さった東京見学旅行は一生の思い出になりました。ぬくもりのある校舎を忘れることなく10年後には9人全員でタイムカプセルを開きたい」とあいさつしました。

その後、校旗が 橋教育長に返納され、川下小学校は静かに100年の幕を閉じました。(3月20日)



広報誌で紹介した写真を希望者に提供します。
●お申し込み●
 秘書課広報広聴係 ☎ 3-3069 へ



青年会議所とスノーモビルクラブが企画したパラセーリング体験に児童は大喜び！！(3月7日)





当別のお米はおいしい！試食会を開催

町米麦改良協会が主催し田西会館で行われた新米の試食会に、地域の育成会の子も25人を含む約100人が参加。当別産「有機米」と「ななつぼし」、新潟県魚沼産「コシヒカリ」の3種類を食べ比べました。

参加者は、においや粘りを確かめながら試食をして、おいしいと思う順番に評価。子どもと大人それぞれの集計結果は、どのお米にも差がつかず、当別産米はコシヒカリとそん色がなくとも味が良いといえます。

また、普段から当別産米を食べている人が多く家庭に最も浸透していました。

試食後にはいもだんご汁、おにぎり、長野パン教室の角食、レインボークラブのニンジンジャムなどで昼食を楽しみながら、農業改良普及センター辻敏昭さんによる「おいしいお米の話」や子ども達参加のお米に関するクイズが行われました。(2月28日)

三味線の音色に魅せられる

「障害を持った方と健常者が一緒に楽しめるコンサート」を目指し北海道医療大学生や社会人で構成したハートfeelingコンサート実行委員会(千葉ルミ委員長)が、三味線奏者の白田路明さん(登別市在住)を招いて演奏会を開催。



学生ボランティアグループ「ゆうゆう24」や小中学生のジュニアリーダーが描いた水墨画の作品が会場内を飾り、力強い津軽じょんがら節の演奏や楽しいトーク、自らのオリジナル曲などを披露しました。

会場を埋めた約250人の子どもから高齢者、障害をもたれた方が一体となる楽しいステージとなりました。

また、この日の日中に行われた「ボランティアの集い」でも白田さんの講演が行われ、三味線との出会いや体験談を話されました。(3月6日)



当別を学ぶ「鮎田塾」

町民に、もっと当別を知ってもらおうと商工会が主催した「鮎田塾」。

「あえ〜る」で3月3日から3夜連続で開催し、延べ100人が受講しました。

3日間に4人の講師が講演、泉町長はこれからの農村づくりを語ったほか、「石狩川」の町民演劇公演を企画している武田龍太郎準備委員長が公演内容の説明など町民に参加を呼びかけました。また、坂田資宏町歴史研究専門員が岩出山の富豪、「手島家のこと」を、当別新聞を発行している清水三喜雄さんが歴史を学ぶ楽しさを講演するなど当別の歴史とこれからの当別を探る会となりました。(3月3日〜6日)

永年勤続を称え90人が受賞

町商工会(河村佳男会長)は、町内事業所の永年勤続優良従業員表彰を商工会館で行いました。

河村会長は「これまでに培われた経験を益々発揮してください。商工会は地域に夢を企業に繁栄を望んでいます」とお祝いの言葉を述べ、勤続年数5年ごとに40年勤続者まで90人に賞状と記念品を贈りました。

併せて、勤続20年の方は道商工会連合会から、勤続30年の方は全国商工会連合会から表彰状が贈られました。また、勤続20年以上の方に泉町長から感謝状が贈られました。

受賞者を代表して高橋二三雄(大栄工機株)さんは「今日まで勤務できたのは先輩・上司の指導があったからです。当別町が明るく住みよいまちを目指しこれからも頑張りたい」と感謝の言葉を述べました。



(3月2日)